

教職員・院生版生協だより

# かけはし

No. 273

2007年9・10月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



全国教職員委員会活動交流会

8/25-26(広島大)

原爆ドーム前にて

東海地域センター教職員セミナー 7/21-22(下呂温泉)  
杉原千畝記念館前にて



名大生協のホームページ(URL) <http://www.nucoop.jp/>  
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

# も く じ

## 【主張】

生協への加入・増資とご利用をお願いいたします -----3

## 【企画案内】

瑞浪・中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学 -----4

中山道を歩こう2 大井宿～中津川宿～落合宿へ -----5

## 【報告】

名古屋大学平和憲章エッセイ審査結果 -----6

入選作「改憲と護憲の狭間で平和を考える」(鬼頭孝佳) -----7

東海地域センター理事長・教職員セミナー報告

生協法改正・コンビニ・付帯学総への対応が急務 -----8

全国教職員委員会活動交流会の報告

若い人に受け継いでいくことが重要課題 -----9

2007年オキナワの旅①「離島は楽し水納島」-----10

夏の組合員交流企画報告 -----24

7月度理事会報告 -----27

教職員委員会の活動日誌 -----27

## 【記事】

ひとりごと

「8月15日に想うこと」 -----13

新フィールドノート-その102-

「下北半島・釜伏山」 -----14

ニュースに一喝!

「点検」「言ったことには責任を」「サクランボ盗難事件」 ---16

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ②

「シギゾウムシ科」 -----18

魔言「度量衡のこと」「百日紅」「こうすればよかった」「御馳走  
さま」 -----20

かけはしの輪 -----22

アンケート・クイズ解答用紙 -----26

CO-OP QUIZ < Logic > ----- 裏表紙

## 主張

名大生協教職員組合員の皆様、二〇〇七年度に生協に加入された教職員・大学院生の皆さん、加入そしてご利用いただき、誠にありがとうございます。

名大生協教職員委員会では、この秋以降に以下の企画を考えています。

IBカフェや理系ショップなどで販売している手作りパンの工場見学、中山道ハイキング(11月3日予定)、生協リングの産地見学(11月23日予定)、うたごえ喫茶、献血、ビデオ上映会と赤ちようちんの組合員交流企画、学内で生の演奏を楽しめる「音としゃべりの金曜サロン」などの企画を準備しています。本誌やチラシなど案内が届きましたら気軽に参加いただければと思います。

昨年、理系地区では大きなブックショップと無線LANが使用出来るカフェがオープンし、理

系カフェテリア食堂は全面的に外装・内装もリニューアルされて新しいダイニングフォレストとして生まれ変わりました。理系地区におられる組合員の方にはより一層のご利用をお願いする次第です。

今夏、生協では北部厚生会館1階の全面改装を実施しています。組合員の皆様方には大変ご

生協加入・増資キャンペーン(名刺作成割引特典あり)

生協への加入・増資と

ご利用をお願いいたします

北部厚生会館1階9月18日リニューアルオープン

迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。北部厚生会館が出来てから早30年が経過しています。組合員の生活スタイルの変化に伴い利用の形態も大きく変わってきています。利用が少なくなっている分野は縮小または廃止し、利用の延びているところは拡充してより一層充実させていきます。不便をお

かけすることもあるかとは思いますが、ご理解をお願いします。

改装後の購買部は大学コンビニ二エンスストアとしての機能を備えたお店にしていきます。もちろん、勉学・研究に必要な文具・事務用品、事務機器などのコーナーも充実させていきます。

なお、2階の食堂部は改装工事中も営業していますので引き

円割引の特典を差し上げます。この機会に是非とも加入または増資をよろしくお願いいたします。印刷・情報サービス部の連絡先は、内線7552となっております。

名大生協の加入率は学生100弱、院生約70名に対して、教職員は約5割にとどまっています。出資金につきましても学生・院生の二万円に対し、教職員の方は加入された当時の出資金のままの方が多くみえます。教職員委員会では、この生協強化月間中に加入または基準出資額(二万円)まで増資された方を対象に委員会企画(文頭を参照)に半額で参加できるキャンペーンを実施しています。

この機会に加入・増資にご協力をいただき、そしてより一層の利用をお願いいたします。

加入または増資を希望される方は、北部厚生会館2階「組合員コーナー・内線7540」「医学部書籍部・内線5208」「大幸購買部・5552」までお気軽にお申し付けください。

# 瑞浪・中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学

## 一緒に平和について学びましょう

瑞浪市の戸狩山（通称：化石山）の山頂に日中不再戦の誓いという碑が建っています。満州事変の発端となった柳条湖事件の9月18日に近い日曜日に、この碑の前で瑞浪市供養会による中国人殉難者慰霊祭が行われています。この化石山の麓には戦時中空爆にも強い地下軍需工場を造ろうと、昭和19年から20年にかけて日本軍による強制連行された朝鮮人と中国人を使って掘らせた地下壕があります。ここでの労働は1日2交代で24時間働かせて与えられる食事は小麦粉とこめかきで出来た粗末なパンを1日に3個だけだったそうです。重労働と栄養失調により39名もの中国人労働者がこの地でなくなりました。

教職委員委員会では毎年、この慰霊祭への参加を組合員に呼びかけています。今年も慰霊祭参加と地下壕と隣接する瑞浪市化石博物館を見学します。一度参加してみませんか。

開催日：**9月16日**（日）

参加費：**無料**

集合・出発：**9時30分**名古屋大学博物館前

午前中に化石博物館の見学

昼食（自己負担）

化石山・地下壕見学

瑞浪市明世町戸狩山（化石山）

14時 日中不再戦の誓い碑で中国殉難者慰霊祭  
に参加

慰霊祭終了後：参加者の感想交流

17時 大学帰着予定

持ち物：長靴、懐中電灯、ある方はヘルメットをご持参ください。

問い合わせ先：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加申込：<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>



# 中山道を歩こう(その2) 大井宿～中津川宿～落合宿へ

中山道は、徳川家康が制定した5街道の一つ、東海道とならんで京都と江戸を結ぶ重要な街道でした。中山道は別名「姫街道」とも呼ばれたように女性の旅人が多かったといわれています。江戸の末期、皇女和宮が京から江戸へ向かった輿入れの行列もその一つです。

今回は大井宿(恵那市)から落合宿(中津川市)まで(約14km 歩行時間約5時間30分) 東海自然歩道のためトイレ、休憩所などは整備されています。

石畳、高礼場、本陣跡、馬頭観音、道祖神、常夜灯、芭蕉の句碑、道標などところどころに江戸時代の面影を見つけられる中山道を歩いてみましょう。

歩き疲れた後は、温泉にゆっくり浸かって疲れを十分とってから名古屋に帰ります。

日程：2007年 **11**月**3**日(祝・土曜日)

行き先：**大井宿から落合宿まで歩きます**

参加費用：大人 **1,000**円、小人 **500**円

(往復交通費、保険料、温泉入浴料)

集合場所：名古屋大学博物館前 **8**時集合

募集人員：**14**名

服装・持ち物：ハイキングに適した靴、服装、

雨具、弁当、水筒、リュック、帽子、手袋等

問い合わせ先：[kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp](mailto:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp)

参加申込：<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>



# 名古屋大学平和憲章エッセイ

## 審査結果

名大生協では、新入生を迎える時期に多くの新入生に名古屋大学平和憲章を読んでいただき、平和についての少しでも自分の頭で考えてもらおうと、平和憲章エッセイ募集の取り組みを行っています。今年は、4月1日から6月末日までの期間で、入選者には東海地域センター主催の「オキナワの旅」参加費全額援助を副賞とし、佳作には5千円分の図書カードと豪華賞品がもらえる企画として開催しました。今年度の応募作品は8作品で、昨年度よりも2作品減りました。

### 審査委員長の講評

平和憲章エッセイ2007の審査委員会は7月20日に開催され、鬼頭孝佳さんの「改憲と護憲の狭間で平和を考える」を入選に、ほか4作品を佳作に選びました。審査委員長としては、うれしくもあり悲しくもあり、といった感想です。うれしいのは、忙しい学生生活の貴重な時間を割いて、8名の方が応募し

てくださったという点です。ちよつと悲しいのは、読んでいて感銘を受けたり、私に気づきを与えてくれる作品に出会うことができなかった点です。何とこのか、みんな「よい子の作文」という感じで、まあ、こんなところかなという想定の内内に収まるものばかりで、レポートの採点をしている気分になってしまいました。おそらく、応募者の皆さんはご自分の「思ったこと」をお書きになったのでしよう。次回は「考えたこと」を書いてくださると、読み手にも発見の喜びを与える力のある作品ができるのではないかと思います。

その中で、鬼頭さんの「改憲と護憲の狭間で平和を考える」は、平和と戦争の自分勝手なイメージを抽象的にもてあそぶのではなく、改憲論議、集団防衛構想など現在進行中の現実の事例に真摯に向き合って書かれており、「考えて書かれた」作品に最も近かったために、多くの

委員から支持され、入選となりました。

選ばれた方もそうでなかった方も、この応募をきっかけに、さらに平和と戦争、憲法、国家、自由などの問題について考え続けてくださることを切望いたします。

### 審査結果

**入選（1名）副賞「オキナワの旅」旅費全額援助**

鬼頭孝佳（文学部）  
「改憲を護憲の狭間で平和を考える」

**佳作（4名）副賞図書券5000円分**

足立裕太（経済学部）  
「戦争との比較でない平和」  
丹羽亜衣（環境学研究所）  
「自由と平和」  
岡田麻美（法学部）  
「世界の可能性」  
中野里美（農学部）  
「平和を考える」

2007年7月23日

審査委員長 戸田山和久

### 入選作品の審査員コメント

○新保守主義的回帰に警鐘を鳴らし、平和憲章が主張した権力

からの独立という立場から学園の動機を得ているところは秀逸であり、読者として共感できました。ただ、エピソードとして挙げられた戦後の日本の平和教育についての否定的な見方が気になります。筆者は画一的な平和教育について否定されたとは思いますが、戦後60年にわたって憲法九条を維持してきた力も平和教育によるところ大であると思っています。戦後の違和感がありました。戦後の平和教育で何が成功して何が失敗だったのかは、昨年末の教育基本法改正にもつながる論点であり、もっと勉強してほしいテーマでもあります。その上で、「人間を戦争に駆り立てる動機の解明」が行われることを期待します。（河合）

○可能性を感じる文章だった。しかし、本人の中での結論に終始している感じがしたので、もう少し、読み手を意識した、世界に今後広がっていきけるような感じになると良いなと思った。（片山）

○平和・戦争・憲法改憲に関する様々な具体事例を、思想面から分析している点が筆者の持論に説得力を与えている。近年の改憲論争を念頭に置いたテーマ選択も評価したい。（佐伯）

# 改憲と護憲の狭間で平和を考える

文学部人文学科 鬼頭孝佳

日本のスイス的な永世中立を是とする私の立場は、改憲派の主張とも一部は重なり、本来護憲を手放しに賞賛できない。しかし、最近の憲法論議を見るに付け、憲法九条の戦後の成果の著しい軽視と人間不在の偽装的な愛国心宣揚が目に見えようになり、私はなし崩しの改憲へ強い警戒心を抱くようになった。

私が武力を肯定したのは、現代世界が国益対立の国民国家体制であることによる。東アジアが緊迫する今、近隣諸国友好や日米同盟強化がしきりに叫ばれるが、本来、「国境」を有する主権国家の連携などあり得ない。短期的に我々を安心させる夢物語でしかない。従って現体制下で、いかなる国も真の信頼関係は結べない。よって、同盟や集団的防衛構想、それに伴う海外派兵も究極的には否定されなくてはならず、故に自国は自国の手で守るとの論理に帰着する。これが、海洋貿易国日本の武装中立化を目指す私の論拠である。一方で、私にとって改憲の意

味は、現在の無制約な解釈改憲への危機感表明でもある。近年の日本の防衛費が著しく増大する現状を見ては、とても自称「平和国家」で世界に通用するとは思えない。私が現状で一定内の武力保有を肯定するが故に、これまで護憲派と一線を画してきたが、最終的な世界像は彼らと共有する理想があった。すなわち、軍廃絶による恒久的平和の実現である。だからこそ、ただ単に自衛隊を自衛軍と位置づけ、国民国家における同盟の欺瞞制を押し隠したまま、結果的に米國戦略と軌を一にする可能性の高い改憲には、再び日本を積極的に武力行使主体へと変質させ得るといふ意味で、賛成できなかった。少なくとも、日米同盟が密目状態で無謀な軍事力拡大を続けていけば、いずれかろうじて保たれている国家均衡は間違いなく破綻するだろう。こうした経緯から、私は護憲を訴える。

さて、現代日本のこうした改憲動向に対して、国民があまり

にも無関心なのはなぜか？ 度重なる政治不信や、北朝鮮への動揺、あるいはマスメディアの影響力に回答を求めることもできるが、ここでは2つの別な要因を探っていきたい。1つは端的に、日教組を中心とする平和教育の衰退と失敗である。私の友人の中に「平和」の偽善性を嫌う男がいる。彼の出身は広島で、原爆投下の影響から、比較的平和教育が盛んに行われてきた。彼の話を聞く度に思うのは、たとえ正しい真理が突きつけられても、自分で思考してその結論に至らない限り、その教育は結実しないということだ。つまり、真に求められる平和教育とは、彼が受けてきたような教師が残酷な戦争写真を見せ、日本の罪状を詳らかに告発する授業ではなく、生徒自身に戦争資料を多角的に検討させ、平和への道を模索する過程を教師が手助けするものでなくてはならなかったのだと思う。一方で、平和教育に対する消極的な国の姿勢も垣間見られ、それが過剰な平和教育を招いたとも言える。

第2に、戦争世代との関係が断絶し、核家族化が進行したことが、戦争に対する若者の想像力を著しく損なわせたとも考えられる。幸運なことに、私は大

学入試以前曾祖母と同居しており何度か戦争体験を聞いたことがある。彼女は英国駐在の元外交官夫人であり、日米開戦を英国で迎えている。本来は英国兵に射殺されてもおかしくなかったらしいが、国外退去を求めた彼女の対応は極めて紳士的で、罵詈雑言を浴びせられることはなかったそうだ。また敗戦後の日本への帰途、中国に渡ったこともあったようだが、そこで幼い祖母を連れた彼女を八路軍から匿ってくれた中国人もいたらしい。あるいはシベリア抑留中に、彼女がロシアの歌を披露したことで、ソ連兵の好感を買ったこと、ソ連兵の好感を買ったこと、規約違反が黙認されたという体験談も聞いたことがある。これらのエピソードは極限状態においても、国家を超えた個人の間関係が形成可能であることを如実に示している。

名大憲章はかつての戦争の反省の下に教職員の間から提出された画期的な宣言であり、研究の権力からの独立が謳われている。文学部に学ぶ我々は、これからも思想面から人間が戦争に駆り立てられる動機を自由に究明し、社会学的なアプローチによって、戦争の温床ともなっている世界体制の改善を図っていかなくてはならない。

東海地域センター教職員セミナーの報告

## 生協法改正・コンビニ 付帯学総への対応策が急務

7月21日から22日にかけて、下呂温泉望川館において東海地域センター理事長・教職員セミナーが開催され、名古屋大学からは4名の教職員委員が参加しました。  
21日午前10時に名古屋駅で貸切バ

スに乗り込み下呂温泉望川館に向けて出発。昨夜からのあいにくの雨とはなりませんが車内では隣同士の会話に花が咲き始終にぎやかでした。望川館到着後、昼食をとり午後からのセミナーに備えます。

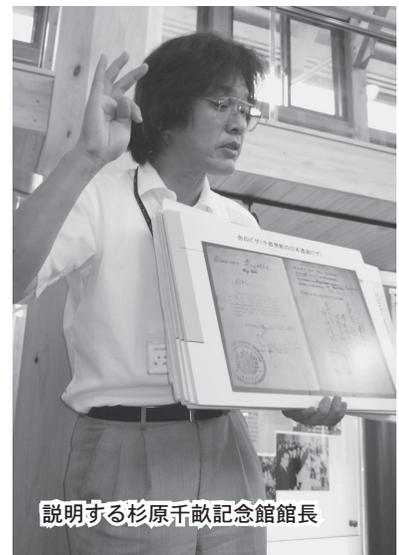
セミナーは13時30分からコンベンションホールにて開催され、基調報告として加藤和広東海事業連合専務理事から「事業活動と生協法改正について」と濱田康行大学生協連合会副会長から「効率と生協らしさ」についての報告がありました。加藤専務理事は国会で生協法が改正され、大学生協にとっては足かせになる部分も多くあり、改正のポイントを3点に絞り、一つは共済事業の契約者保護について、二つめは理事会の権限の強化、三つ目は事業や環境の変化をふまえた見直しについて話されました。加えて共済事業の見直し、員外利用の規制への対応、各会員生協においても来年度の総代会以降に定款改定を行わなくてはならないことなど生協法改正に伴う対応策が話されました。濱田副会長は専門の金融業界の動向にふれ、日本の企業は

海外進出から国内マーケットに戻ってきていて、加えて、外国資本の進出による玉突き現象によって今まで儲からないと思われていたところにも進出し、その影響は大学生協の領域まで及んでいると報告されました。さらに、生協には経営者らしい経営者がいない点にふれ、経営者を育て、それに任せ、周辺がチェックするという仕組みを作らなければいけないと強調されました。

次に、福井一徳中京大生協専務理事による連合会の共済委員会の報告として、文科省所管団体による付帯学総が07年度国立大学の6割の大学に導入され、生協の共済の利点を明確にして対抗して行かなければならないこと。葛谷光雄東海地域センター事務局長によるコンビニ委員会の報告として、国立大学の法人化に伴い新たな収入の確保のためにコンビニの導入が急速に進んでいる状況が説明され、温度管理の弱さなど生協の弱点を克服して対抗できる環境整備の必要性が話されました。

全体会最後の報告としてあいち消費者被害防止ネットワーク代表の杉浦市郎愛知大学教授が今年5月にNPO法人となった同ネットワークでは割賦販売法の改正を求める意見書の取り組みと財政問題についての報告がありました。これらの報告を受け4つの分散会に分かれて討論が行われました。最後に可児島俊雄東海事業連合理事長よりまとめの挨拶として事業連合の統合計画などの話を受け1日目の日程を終了しました。懇親会は日本三大名泉の下呂温泉に浸かってから大広間で開催され、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、参加者各位の自己紹介が行われ和やかに歓談しました。

翌日は、八百津町の人道の丘にある「杉原千畝記念館」にて館長さんから戦時中、杉原千畝がリトアニアに残されたユダヤ人に日本の通過ビザをナチスドイツから救ったお話を聞きました。



説明する杉原千畝記念館館長



望川館前にてセミナー参加者と



全国教職員委員会活動交流会の報告

# 若い人に受け継いで いくことが重要課題

8月25日(土)、2007年教職員委員会活動交流会が広島大学で開かれ、名古屋大学生協から6人が参加しました。

この交流会は、全国の大学生協の中で、教職員委員会を設立し活動している大学生協、または将来教職員委員会をつくりたいと考えている大学生協が、年に一度集まっ

てその活動を交流するのを目的に開かれているものです。今年の交流会は広島大学が会場となり、北から北海道大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、広島大学と、大学生協連合会、京滋奈良地域センター、中国・四国地域センターの生協職員、合わせて28人が参加しました。

交流会に先立って、午後1時から広島大学生協の店舗見学を行いました。広いキャンパスのやや北寄りに食堂・購買・書籍・旅行の北1店舗があり、夏休みの土曜日ということで購買・書籍は休業でしたが、食堂はにぎわっていました。購買・書籍・旅行は一つのフロアーにまとまっており、使い勝手がよい印象を受けました。また食堂はカフェテリア方式でバラエティに富んだメニューが並んでいました。ただしパソコン等は、離れた別の店

舗で扱っているということでした。約1時間の店舗見学の後、キャンパス内を案内され、交流会の会場となっている西2食堂(キャンパスのやや南西にある)まで歩きました。

交流会は、はじめに各大学生協教職員委員会の活動紹介がありました。この中では、委員会活動への参加を若い人に受け継いでいくことの重要性、教員だけの活動になつていく(広島大)、職員だけの活動になつていく(京都大・名古屋大)、男性だけの活動になつていく(名古屋大)などの参加者の偏りを克服する問題などが活発に議論されました。

各大学の活動紹介とそれに基づく討論が白熱し、その後に予定さ

原爆ドームには外国人観光客も多い



潮の引いた厳島神社大鳥居前にて



れていた分散会は時間が十分取れませんでした。3つのグループに分かれ、環境問題を意識した生協活動、生協の平和活動などについて話し合いました。

話し合いに続いて夕食交流会となり、地元西条のお酒などをいただきながら参加者どうしの交流を深めました。

交流会では、2008年9月、4年に一度開く全国教職員セミナーを新潟で開くよう準備を進めていると報告があり、この交流会もそこへ合流しよう確認されました。

名古屋大学の参加者は、西条駅前のホテルに宿を取り、翌26日(日)は、広島市内で原爆ドーム、平和記念資料館を見学しました。昼食には広島名物のお好み焼きを食べ、午後は世界遺産「宮島を見学、夕刻名古屋に帰りました。



# 2007年オキナワの旅①

## 離島は楽しむ 水納島

全学技術センター河合利秀

毎年東海地域センターで開催されている「オキタビ」に、今年も引率のような感じで参加した。

僕自身は3年連続の参加となる。沖縄で生活している息子に会うという目的もさることながら、学生たちに沖縄でしか体験できない「平和を考えること」や「自然の美しさ」を少しでも伝えられたらとの思いがあった。参加しているのだが、今年自分自身をリフレッシュできたことが最も大きな成果だったような気がする。

オキタビの始めにセットされている南部戦跡めぐり（平和ガイドをしていたただいた仲さん・琉球大学生協職員…の丁寧な解説に感謝！）や琉球舞踊鑑賞など、順次報告していきますのでお楽しみに！

### 水納島①

#### 〜皆既月食を楽しむ〜

第2日目（8月28日）夕方、沖縄中部の東シナ海側に浮かぶ小さな島、水納島（ミンナジマと読みます）に渡った。

この日は「皆既月食」なので、小型赤道儀とスチールカメラを持参し、月食の月と天の川という構図で星の写真が撮れたら・・・という思いもあり、心躍らせていたが、水納島に付くやいなや、スコールの直撃をくらいい。

赤道儀の設置は回転軸を北極星に合わせる必要があるのですが、少々時間がかかる。皆既月食の時間帯も半ばを過ぎて、写真撮影は諦めざるを得なかった。

しかし、天の助けか、それまで覆っていた黒雲があつという間に去ると、赤銅色の月が現れた。今丁度本影から半分以上過ぎた頃であらうか、下半分が僅かに明るい状態。東の空に浮かんでる。天頂はと見ると、ちぎれちぎれの雲間に天の川が顔をのぞかせているではないか！  
夕食もそこそこに、「月食を見に行こう！」と半ば強制的に学生たちを引き連れて浜辺に出た。

民宿のお兄さんと一緒に



あたりは人工灯火一つない。遠く、本部の町や伊江島の民家の明かりが見えるのみである。浜を打つ波頭に夜光虫が舞い、空の暗さは「星空散歩」に十分であった。目を慣らすために、懐中電灯を全部消して、しばらく暗いところを見つめる。次第に姿を現す「天の川」……  
いて座あたりからわし座、白鳥座、カシオペア座に至る真砂の光、暗黒帯もくつきりと見分けられる

ほどに見事な「天の川」である。

台風などの影響もなく、波静かな海と大気は、空の透明度をより高くし、人工灯火のない浜辺の闇はより深く、そして微かな星の光さえも見分けられるほどの精緻さで、天の川を見ることができようとは、何という幸運であろうか!!

早速ペンライトを片手に、星空案内人となる。

女の子に気なのは織姫と彦星。こと座のベガとわし座のアルタイルの見つけ方を説明する。ご存知「夏の大三角形」である。もう一つの明るい星は白鳥座のデネブ。三角形の中心には白鳥の頭となるアルビレオが輝いている。白鳥の羽は「かささきぼし」。これを渡って織姫と彦星は一年に一回、愛の語らいを許される。この話をしないと始まらない。

夏の大三角形を探しているうちに、目も暗闇に順応して、天の川の微細構造が見えてくる学生も出てくる。天の川が大きな光の帯だと思っていた学生は暗黒帯の存在を知らなかった。この日初めて自分の目でそれらを確認し、感激している模様。

南の空が晴れたので、いて座やさそり座を追う。さそり座の全身が見えるのも沖繩ならではのこと。尻尾の毒針にあたる2つの青

い星は益々冴えて美しい。さそりの心臓にあるアンタレスの不気味な赤と好対照である。

夏の大三角形の下に位置する小さな星座、矢座といるか座は子供たちに人気があるのだが、同行した学生たちはあまり反応しない。生まれて初めて明るい天の川を見て、数え切れない星に圧倒され、大きな星座に目を奪われているようだ。

昨年同様、流れ星探しとなる。この頃には月もずい分と明るくなり、徐々に天の川も背景に沈んでいく。

それでも空の神様は僕たちに贈り物を届けてくれた。大きな流星が一つ、痕を残して流れたのである。多くの学生は流れ星の筋が残るのを始めて見たに違いない。みな一様に驚きの声を上げた。

ひとしきり星を見たあと、月も煌々と輝き、地上に強い影が出て、月明かりの強さを実感する。やがてみなは花火へと興じる。

## 水納島②

### 〜夜光虫〜

皆さんは海ポタル〜夜光虫を見ることがあるだろうか。

皆既月食のおかげというか、星

空教室の余韻をかって、夜光虫を見ることができた。

普通、闇夜なら、波打ち際に蛍のように輝いているのだが、月が煌々と照っているのだから、月明かりの反射と区別がつかない。これでは夜光虫は見えないので、一工夫する。

棧橋に係留されている連絡船に丁度よい月影がある。ここに水を蒔くと、びっくりして夜光虫が発光するのだ。この現象を確認し、学生たちを呼び集める。

月影を囲み、「今から海ポタルを見せるよ!」と宣言して、手で海水をすくい、暗い水面に叩きつける。すると、海面にいた夜光虫が興奮して発光する。水滴の落ちた所が見事にひかり、そのほのかな光はさわさわと消えていく。

この面白さに、学生たちが次々に水を海面に投げつける。約束したように、見事に光る海ポタル。

都会育ちの学生がほとんどなので、初めて海ポタルを見たのだから、僕はさっさと引き揚げたが、何名かの学生は、飽きもせず海ポタルをみていたようだ。

淡い光は怪しくほのかに、しかしこれ以上口マンティックなものはない。

## 水納島③

### 〜シュノーケリング〜

今年は「ボートエントリーのシュノーケリング」に挑戦した。僕は泳ぎに自信が無い。いわゆる「かなつち」である。しかし心配御無用!!

ライフジャケット着用が義務付けられているとのこと。これなら絶対に沈む心配は無い。

インストラクターの簡単な説明を聞き、装備の使い方や泳ぎ方を教わった。今回は足ひれを付ける。潮の流れがあるので、反対方向に絶えず泳いでいないと流されてしまう。できる限り同じ場所に居たほうが魚の寄りも良いとのこと。餌付けされているので、ダイバーが近付くと餌ほしさに魚たちが寄ってくる。

沖合に船を進め、いよいよダイビングポイント。言われたとおり海に入り、安全を確認するため船から離れる。水中めがねを通して、珊瑚礁が見える。ちょうど珊瑚礁の淵にいるようだ。前方は切り立った落ち込みになっていて底は見えないほど深い。手前は3〜5mの水深で、大小様々な珊瑚の群生となつている。

教えられたとおり、指先で餌

ダイビングに向かう参加者



のソーセージを小さくすりつぶすと、次から次へと魚たちが寄ってくる。目の前を悠々と泳ぎ、仲間は僕の手や指にかじりつく魚もいて驚かされる。こちらもちよつといたずらしようと、手にかじりついた魚を掴んでみる。大慌てで逃げた魚たち。しかしまた別の魚が

寄ってきて、餌を奪い合う。しかしここは自然の海の中、いつの間にか潮の流れに押されてポイントから離れてしまう。こんなとき、足ひれは強力だ。潮の流れを正面に受けて、前向きに泳ぐように緩やかに足を振る。コツはすぐ飲み込めた。一定の場所に止まるように泳ぐの

だ。大きな鯛は悠然と泳ぎ、僕たちを警戒する様子もない。ツノダシやハタタテは忙しく珊瑚の周囲にある餌をついばむ。ごまアイゴの群れが餌に寄ってくる。アイゴの鱭の先は毒があるので要注意。触るべからず!!

ギンガメアジの群れが高速で横切っていく。なんと凛々しい泳ぎっぷりだろう。ふと気が付くと、水面近くに小さな魚たちが寄っている。透き通った魚体に太陽の光が反射してキラキラと輝き、それは美しい。僅かに見える青い線がキビナゴと思えるのだが、小さくて確認できない。次に底のほうを見やると、青い立派なヒトデや黒いナマコが珊瑚礁の間の砂の上に横たわっている。

時々珊瑚の影から色とりどりのモンガラハギが顔を出す。ひょうきんな顔に似合わず、何でも食べる。結構大きな青ブダイが珊瑚の影に潜んでいる。あれなら4、5人分の刺身になるなどと考えているとさつと隠れてしまう。ちようちようおやヤッコダイの種類も多く、どれが何だったかを思い出すこともできないほど多くの模様を見た。色とりどりの空間に、元気に泳ぎ回る魚の群れは、どれもみな美しく、魅力的である。このような島の自然を、戦争のためにつぶしてしまおうとする(辺野古のヘリポート建設計画)愚かしさに、なぜ人間は気づかないのだろうか。あつというまに予定の時間は過ぎ、童宮城から引き揚げなければならぬ浦島太郎のような心境。ああ・・・もつとこの中にいたいのに・・・

午後2時が干潮のピークと聞

海の中の魚たち



き、シュノーケルで行ける所まで泳ぐ。潮は思ったより大きく引いて、魚たちが姿を現す珊瑚礁の端までも背が立つ深さなのは心強い。溺れる心配がないからだ。しばらく自分も魚となつて、自由に泳ぎまわる。腕力と深い息がシュノーケルの基本技術。水中をただようように、自由に方向を変え、大きな魚を追うのもよし、小さな魚を見つけてじつと対面するのもよし。もうこのまま時間が止まってくれたら・・・と思うほど、美しく安らかな海であった。

毎年、8月15日は異様な雰囲気であった。国家元首の靖国参拝に近隣諸国は神経を尖らせ、民族対立を煽る政治宣伝が猛威を振るっていたからだ。

しかし、今年はいささか様子が違う。

安部首相は参拝を見合わせる、閣僚の参拝はわずかに1名（高市早苗沖縄北方相＝当時）だけとなった。「戦後レジューム」からの脱却、「美しい国日本」という復古主義の理念を掲げて教育基本法改悪を強行し、憲法9条改定をもくろんだ安部内閣は、7月29日投票の参議院選挙で手ひどい敗北を喫したからである。

与党大敗の直接的な原因は、年金問題や閣僚の相次ぐ失言、閣僚の不明朗な事務所経費の実態などであったが、選挙前、憲法改正も争点のひとつと発言していた安部首相の強引な国会運営に多くの国民が危機感を抱いたのではないかという新聞各紙の

分析は、的を得たものといえよう。

NHKをはじめとするTV番組をみると、戦争の痛み、戦争の理不尽さを描いたドラマやドキュメンタリーの力作が目白押しとなり、今日の政治状況に改めて戦争を風化させてはならないとする言論人やマスコミ関係者の意思が伝わってくる。

とりわけ印象に残ったのは、水

## 8月15日に想うこと

木茂の戦争体験をつづった「鬼太郎が見た玉砕」である。軍隊という組織の理不尽さ、人間の命を「鴻毛の如し」として消耗品扱いは大本営、軍人勅語で「生きて虜囚の辱めを受けず」とした教育、そしてその結果南方に屍をさらさなければならなかった日本兵や哀れ.....

戦争を知らない世代に理解できるか？ という疑問など木っ端微塵に吹き飛ばすリアリティで、このドラマは迫ってきたのである。

まったく違う手法で戦争

のおろかきを見事に伝えたのは、現代のお笑い芸人が特攻の世界にタイムスリップするという設定のドラマ「零のかなたへ」である。いま最も油がのっている「ぐっさん」を主役にして、特攻基地に待機する航空兵の苦悩と悲惨さを見事に表現して見せた。理屈ではない。戦時中の日本軍の狂気が多くの純粋な青年の命を奪った事実を、これでもかというほど見せつ

けた。

特攻機が米国艦船に突っ込んだあと、広島・長崎の原爆被害を写すことで、特攻によって恋人や家族が守れないことも、このドラマは静かに語ったのである。

二つの作品を見ると、なぜもつと早く戦争を終わらせることができなかつたのかとの思いがあふれてくる。しかし、結局のところ、ポツダム宣言受諾の判断は先延ばしされた。

敗戦を決意できる「人物」がいなかつたためだ。敗戦の責任を取れないほど小心者の軍人たちが、あの泥沼の戦争を指揮していたのである。日本人にとつてこれ以上の悲劇があるだろうか。

玉音放送を聴いた多くの日本人が、敗戦というショックよりも「もう空襲はない。戦争は終わったんだ！」という安堵感のほうが強かつたという話も納得できる。しかし、戦争に負けることなど想定できない多くの人々は、茫然自失であつたことだろう。我に返れば、とにかくどんな形であれ、一刻も早く戦争を終わらせたかつたという自分の本当の心に気づいたのだ。平和を望む日本人の心は、このとき「核心」となつた。

戦争と戦争を目的とする軍隊の保有を永久に放棄した日本国憲法が、実に多くの人々の犠牲の上に作られたということ、改めて感じた一日であつた。

(河合利秀)

# 下北半島・釜伏山

情報科学研究科 広木詔三

八月十六日は、七十四年ぶりに最高気温を更新したという。多治見と熊谷で四十点九度を記録したのであった。

私はこの十六日は、東海道新幹線と東北新幹線を乗り継いで、名古屋から八戸までおよそ五時間近くも車中にいた。下北半島の釜伏山のミヤマナラ林とそれに続くブナ林の写真撮影に行くのだ。厳しい山頂部ではブナからミヤマナラに置き換わるのだ。今日から帰りの十九日まで名古屋の暑さとはおさらばだ。

七月三十日に全学教育の試験を終え、採点をし、成績の電子入力を行った。そして、ついに夏休みとなった。夏休みに入ると、三日ほど調査に出かけた。その後、大学院の入学試験が八月の九・十日とあり、それから盆休みに入った。

あつという間に盆が過ぎ、十六日には下北へ出発である。八戸からは下北半島の付け根の野辺地まで特急の指定席券を予約した。もちろん東海道新幹線も東北新幹線も指定である。出発の前日にもかかわらず指定席券がやすやすと手に入ったのには驚いた。帰りの十九日にどれほど苦しむかはこのときは予想もしなかった。

野辺地からはJR大湊線で下北まで出る予定だ。下北の次が終点の大湊である。野辺地には午後の四時前には到着することになっている。それから先のこととは考えていなかった。ただ、一抹の不安はあった。下北から先のローカル線がどうも廃止されたようなのだ。

朝の九時過ぎにのぞみに乗る。朝の一時限目の授業と同じくら

いの時刻に家を出なければならぬ。それでも八戸まで新幹線が通ったおかげで、その日のうちに宿に着ける。だからとても安心だ。まだ東北新幹線が通っていない頃には、妻の実家の青森に行くには寝台車を利用したものだ。

のぞみで名古屋から東京までおよそ一時間四十分。若い頃のように電車の中で読書をする気力はない。だから本は携帯しなかった。ただでさえ、重い荷物は堪えるのだ。十一時頃に東京駅で東北新幹線に乗り継ぐとき、駅のプラットフォームに出たときやけに蒸し暑かった。でも、それが七十四年ぶりの猛暑であるとは、そのときは気づきようもなかった。いや、そうでなくても、駅のプラットフォームは夏はいつも蒸し暑いものだ。

東北新幹線は最初は仙台までだった。それ以前は特急で四時間掛かっただろうか。それがどうだ。今は東京から仙台までおよそ二時間で行ける。いや、東京―八戸の直通便「はやて」なら二時間をきる。学生時代に

仙台から東京まで九時間もかけたことが嘘のようである。

東北新幹線・はやてに乗り込むと、三つ並んだ一番奥の窓際の座席に腰をおろす。指定席券は前もって容易に手に入ったとは言え、盆の時期はさすがに込んでいる。当日は指定席は満席だと言う。隣の二つの座席には若い学生風の男が席を占め、私は早速缶ビールで一杯やり、握り飯で昼食をとる。あとは見慣れた景色をただぼんやりと夢のように眺める。大宮を過ぎると市街地が少なくなり、宇都宮あたりからは屋敷林が目立つ。福島県に入ると緑が目立つ。関東地方の平野部から東北地方の丘陵地に移り変わる。はやては郡山にも福島にも停まらない。郡山で磐越西線に乗り換えて会津磐梯山に通った頃を思い出した。うとうとしてみると、やがて仙台に停まり、そのうちようやく盛岡に着く。盛岡を過ぎると、遠くの緑の山並みが見える。うとうとしかけて、景色もおぼろげになる。眠気さましてコーヒーを注文した。飲み終わらな

いうちに八戸に到着した。隣りの青年も一緒だった。

はやてを降り、エスカレーターで上ると、乗り継ぎの改札口だ。

切符を取り出そうとしてズボンのポケットに手をやると、いつもあるべきところにあるはずの財布がない。一瞬、ある種の喪失感に襲われた。妻が死んだ後に味わうであろうような喪失感だ。これからの旅費の全額とカード類の入った財布がないのである。頭が真つ白なまま、乗客の整理をしている駅員に、財布のないことを訴えた。大勢の乗客が流れるように通り過ぎる中、駅員はなかなか事情を飲み込んでくれなかった。

私は財布がどうなったか見当がつかないので、擦られたのはという考えが一瞬浮かんだ。そういうえば、隣りに座っていた青年の姿を見かけない。駅員がようやく事情を理解して、乗った車両に行くことになった。エスカレーターを降りようとしたとき、例の青年を見かけた。つい「これからどこへ行くのですか」と聞いてしまった。「青森ま

です」とその青年は答えた。私の財布を知りませんかと聞く間もなく、車掌にせかされてエスカレーターを降りた。

駅員に、何号車に乗っていたのかと聞かれたが、何号車だったのか思い出せない。切符を見れば分かるのだが、その切符は財布ごとない。駅員はかなりじれてきた。最近、人の名前や文献がすぐに思い浮かばないことが多い。そのうち乗った車両を思い出すことができ、駅員とその車両に行く。財布は清掃のおばさんがすでに拾って車掌に渡した後だという。駅員が車掌のところに行つて財布をもつてきた。野辺地まで行く切符が入っていて、それは私の伝えた通りだが、念のために財布に入っていた名詞の名前と合っていることを確認した上で駅員は財布を渡してくれた。これまでもいろんな経験をしてきたが、このときの嬉しさは、格別であった。さきほどまでの喪失感は消え、青森へ向かった青年を一瞬たりとも疑つたことを恥じた。

野辺地行きの特急はすでに出

発してしまつていたが、駅員は親切にも下北まで直行する快速の乗り場まで案内してくれた。発車間際だった。たつた二両の車両は混んでいて、およそ二時間ほど立ちっぱなしだった。

十七日、恐山行きのバスに乗り、冷水というバス停で降り、往復十五キロ以上歩いた。ずっと霧雨で、葉の採集はできたが写真を撮ることはできなかった。冷水のバス停に着くころには足が棒のようになり、もうフィールド・ワークもおしまいだという気持ちにとらわれた。

翌日、帰ろうと一時は考えたが思いとどまつた。宿泊している田名部(たなぶ)の町では、十八日から三日間お祭りだという。だが、夜になるまでが長かった。宿にチェックインできるまで、町に二軒しかない喫茶店で粘るにも限度がある。

夜の八時から、おしまこ踊りという花笠をかぶつた踊り手が町中を行進する。男も混じっているが、断然女性が多い。

青森のねぶたとは違って笛や太鼓に合わせて手を振りながら

歩いていくだけだ。ねぶたでは踊る人をはねと(跳ね人)と言うほど飛び跳ねる激しさがある。田名部のおしまこ踊りには、ねぶた踊りで見られるような激しさはないが、踊りと一緒にスピーカーから流れる歌を聞いているとなんとなく懐かしさを感じさせるものがある。

下北半島の北西の先端に大間という町がある。そこは漁師町だ。そこで穫れる大間のマグロは有名だ。二日目はお祭りだということ、とある料理屋に入つて大間のマグロを注文した。たつた五きりで二千円以上もする。値段ほどの違いは分からなかった。それよりこれまで苦手だったホヤが旨かった。ホヤの塩辛も酒と合う。ところで、陸奥まで私はいつたいたいなにに來たのかと思わないでもなかった。

翌朝晴れたので釜伏山までタクシーで行つた。いじけたブナと矮生のミヤマナラの写真を撮影して直ちに大湊駅に向かった。今日中に名古屋に帰るのである。大湊駅から釜伏山を見ると、釜伏山はすでに雲で覆われていた。

# ニユースに一喝！！

## 点 検

今回の中華航空機的那覇空港に於ける炎上事故では、何より、死者が出なかったことだけが不幸中の幸いである。勿論これは他人の言うこと、当事者にとっては、荷物は全部焼けてしまい、帰国した人にとっては、土産物はじめ思い出の品を失ってしまった。これから旅行をしようとする人には、それどころでは無かる。旅行を続ける気にもなれまい。脱出する際、やはり手荷物に未練を残し、邪魔な物を持って滑り降りた人もいたという。責められないが、やはりスムーズな脱出には大いに邪魔だっただろう。全部脱出できたからいいようなものの、一人でも残されていたとすれば、こういう人は非難もされようし、悔いの念も残ったことだろう。何

はともあれ、死人でなかったことは我人共によかったと思う。それに、地上で起きたことであり、多くの目撃者がいて、一週間では原因の究明も出来た。結局は機体の整備ミスだ。そのため、事故後には同型機について矢継ぎ早に種々の点検の指示が出されている。そのことをとやかく言うのではない。当然のことだと思う。しかし、一点、何となく割り切れない物が残る。仕方のないことかも知れないが、全部後追いという感じがぬぐえないのだ。勿論、定期的に全部について点検しているのだろうが、それにも関わらずこういう事が起こるといえるのはどういふ事なのだろうか。やはり、想像力を働かせて、未然に不具合の起こりそうな所を事前に見つけ

出さなければなるまい。逆に、もう旧聞に属し、忘れられてしまったと思うが、強く印象に残っていることがいくつもある。その中で、名前を覚えていたのが、スカイマークエアラインとか言う、僅かな飛行機で大航空会社に挑戦しているところが、定められた点検項目を長らく放置したままで運行し、当局から大目玉を食ったという話、点検をすつぽかしたことはいけないことであるが、その点検は放つておいてもなんとも無いということが、結果的に証明されたということのように思っ

た。原発などについても、この定期点検のことがよく話題になるが、事故が起こるのは、点検されていないところで起こる。20年間一度も点検もしたことがないパイプが破断してとか、金属がべらべらにすり減っていたとか、事故後は気をつけるのだろうが、やはりしらみつぶしに全部見なければなるまい。大変なことだろうが、単にマニュアルに従っているだけでは何とも成らないという気がする。

(田 2007・8・27記)

## 言ったことには責任を

今回の参議院選挙(2007年7月29日)は、年金記録の紛失、政治と金の問題、閣僚の失言・暴言等、政府与党にとっては、まさに逆風の中だった。しかし、その中で、安部首相は、敢えて、首相として(と言ったか、国の指導者として(と言ったか、正確には覚えていないが)、私を選ぶか、

民主党小沢さんを選ぶかと、言っていた。参議院選挙は、ずばり政権を選択するための選挙ではない。にもかかわらず、参議院選挙で敗退して、退陣した首相は過去に複数いる。今回の負けはそれに劣らない負けっぷりだ。その結果のでないうちに早々と安部さんは「続投」(これは変な

言葉だが、適当な言葉が見つからない)を宣言し、選挙の翌日、自民党の役員会でもその意思を表明して、一応了承された。了承した役員の中には責任を取って辞める人もおり、苦渋の決定であったことは重々察せられる。党内から、異論もないわけではないが、強力な対抗馬(これまた「馬」に例える変な表現だ)が現れない。第一の候補だった麻生さんは負けの決まった直後に、安部さんの続投を支持していると伝えられた。勘ぐれば、いま後継におさまるのは火中の栗を拾うような物だと思つたのかも知れない。そんな周囲に助けられたのか、見捨てられたのか、安部さんはこれから苦難の道を歩もうとしている。

党内からは細々だが、続投するなら国民の納得できる説明をすべきだという声が聞こえる。しかし、それは土台無理だろう。国民の意思が自民党を見限つたことははっきりしており、政権選択の選挙ではないというものの、安部さん自ら言った、小沢さんを選ぶのか、私を選ぶのかについては、明確な意思が表示されている。自縄自縛である。国民が基本的なことは納得して

いる、今進めている改革はどうしても進めなければならぬというの、首相の独りよがり以外の何物でもない。それにノーを突きつけたのが今度の選挙だ。こういう論理が通るなら、選挙の結果など意味がない。

参議院で法案が否決されても、絶対多数の衆議院で、三分二以上で再議決すればいいという考えがあるのかも知れないが、そ

## サクランボ盗難事件

毎年この時期になると、サクランボの産地では収穫直前に色づいたサクランボがごっそりと盗難に遭うというニュースに接する。何とひどいことをする人がいるものかと心が痛む。今年は、産地では、人が入ったら警報が鳴るといふ装置を付けて盗難に備えていたと言いが、装置を設置する直前にやられてしまったというのを聞き、豊かな収穫を夢見て丹精してきた生産者の人たちの気持ちを思い暗然たる気

の多数も安部さんの自前の議員ではない。早く、衆議院を解散して、本当の政権選択の選挙をしなければなるまい。

日本人が好きな「まこと」という言葉は「真実の言葉」、それが「真」である。「まこと」の通ずる世の中であつて欲しい。

(田 2007・7・31記)

持ちにさせられた。まさに人での所行だ。以前は、猿や猪・熊などの野生動物による農産物の被害がよくあつた。その対策に頭を痛めていた事をテレビなどで見た。動物と人間の知恵比べのようであった。こういう野生動物は根こそぎというようなこともなかったが、悪い人間は良いところだけ全部持つて行ってしまふ。サクランボだけでなく、米などが収穫直前に盗まれたなどということも聞いた。

この頃は、これに限らず、人道地に落ちたような事件が多い。最近、金属製品の値上がりで連れて、ガードレールやマンホールの蓋などまでが盗まれる。危険きわまりない。工事用の鉄板、何トンもある重い物でもこの頃は油断できない。大型重機で運んでいつてしまふ。見ていても、盗難とは気づかない。こういう物を買取人があるからこういう仕事も成り立つのだ。悪い奴が居るものだ。展示中の2億円相当の金塊を強奪した犯人も捕まつたとは聞かない。宝石店でも、つい最近2億円という王冠が強奪された。

現金自動払い機などを根こそぎ持つて行ってしまふような荒っぽい盗難事件もよく聞く。消息通は、そういうことをやる連中にとつては、現金自動払い機が町中にあるのは、金庫が放置してあるように見えるのだという。そうなのかも知れない。悪いのが居るものだから、やられないためにどんどんそれに対する防御を固める。その結果、いつもその被害を被るのは大概は善意の人々だ。何とかならないものだろうか。

(田 2007・6・15記)

# 東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ②

## シギゾウムシ

全学技術センター 井上晶次



写真1 シギゾウムシの頭部



写真2 クヌギシギゾウムシ

ゾウムシの名前には、○○+鳴+ゾウムシ、○○+猿+ゾウムシ、○○+蝟+ゾウムシ、○○+鱉+ゾウムシ、○○+蚤+ゾウムシなど動物の名前をつけてあるものがあります。○○の中には植物名、体の特徴、地名、人名などが入ります。

今回はこれらの中からシギゾウムシを紹介します。

写真1を見てください、シギゾウムシの頭部です、かっこいいと思っっているのは私だけでしょうか、採集してみたいと思いませんか。

シギゾウムシの仲間は吻(ふん)が非常に長く、嘴の長い野鳥のシギ(鳴)から名前をいただいています。ファーブルの昆虫記にも出てきますが、この長い吻でドングリなど木の実に穴を開けそこにたまごを産み付けます。

写真2はアベマキに産卵のために集まったクヌギシギゾウムです。この写真は2003年に千種区の平和公園で撮影しました、その後も毎年このアベマキにはクヌギシギゾウムシが集まっています。今年も見ることができました。

写真3は穴の開いたどんぐり

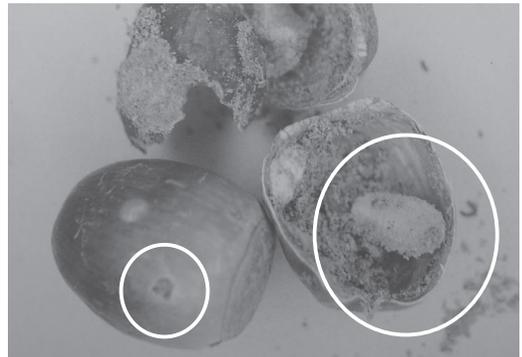


写真3 シギゾウムシの幼虫

とシギゾウムシの幼虫です。写真左側のどんぐりの穴は、産卵した穴ではなく、幼虫が出てくるために中から穴をかじり始めている穴です。どんぐりをたくさん集めて静かにしているとかすかにカシャカシャという音が聞こえてきます。そのまま静かにしていると中から幼虫が出てきます。その後幼虫は土の中にもぐりさなぎになります。

東山キャンパス周辺では、コナラシギゾウムシ、クリシギゾウムシ、クヌギシギゾウムシ、セダカシギゾウムシ、ジュウジチビシギゾウムシ、ウスモンチビシギゾウムシ、レロフチビシ

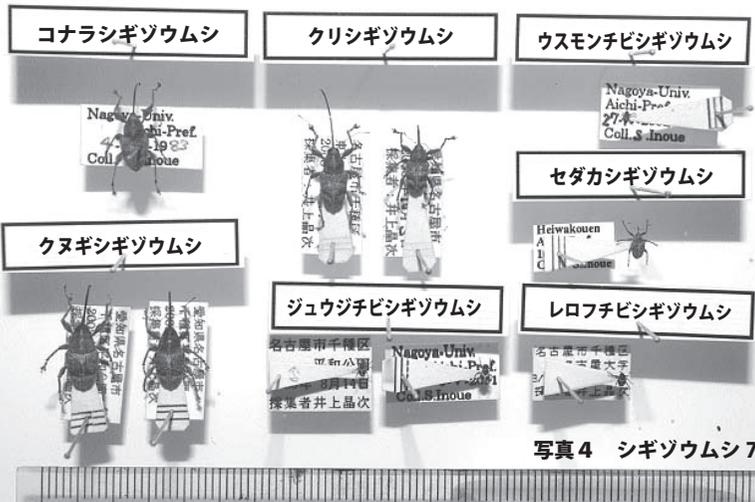


写真4 シギゾウムシ7種

ギゾウムシの7種(写真4)採集しました。コナラシギゾウムシ、クヌギシギゾウムシ、クリシギゾウムシは体長8〜10mm程度、セダカシギゾウムシは4mm程度、それ以外は2〜3mm程度です、いずれも吻の長さは含みません。



写真5 クリシギゾウムシの雌雄

シギゾウムシの多くは雌雄で吻の長さが異なります。写真5はクリシギゾウムシの雌雄です。右側は雄で吻は体長より明らかに短いのに対し、左側はメスで吻は体長同程度かそれ以上です。採集方法は、コナラ、クリ、クヌギにどんぐりの実がなり始めた頃、その下にたたき網を置き、木の枝をゆすると落ちてくるのでそれを採集します。これらの木は非常に高いのでなかなか木の上のほうをゆすることができません。その場合は、長い竿の網で木の上のほうを掬います。しかしこの方法は上のほうの一箇所の枝に網をかぶせて掬うと近くの枝もゆれゾウムシが網

以外に落ちてしまいそうです。ためにカシの木の下に7m四方のブルーシートを敷きその上の枝を長竿で掬ってみました。その結果、網に入ったのは2頭、シートには15頭のクリシギゾウムシが落ちてきました。やはり網に入る以外に逃がしてしまいうが多いようです。もともとこのカシの木にはクリシギゾウムシがたくさん集まってきたのを知っていたことと、木の下にシートを敷く条件があったのでこんな遊びをやってみました。山の中ではなかなかできそうもありません。

ここで、ゾウムシ採集の道具として、たたき網と長竿が出てきましたので少し紹介します。たたき網とは、写真6のように約80cm四方の白布の四隅に袋を縫いつけ、そこに十字に竹を挿入した道具です。写真7は長竿で木の上のほうを掬っているところです、この長竿は約6mありますが、なかなか木の上まで届きません。これ以上長いと重くて振り回すのが大変です。

この号が発行される頃にはどんぐりが落ち始めるでしょう。一度どんぐりを集めてシギゾウムシの幼虫を観察してはいかがでしょうか。

訂正  
前号で「コクゾウムシ(写真3)は体長2〜3cm程度」とあるのは、「コクゾウムシ(写真3)は体長2〜3mm程度」の誤りです。



写真7 長竿による採取



写真6 たたき網による採取

## 度量衡のこと

少し前のこと、NHKの番組の中で、枘や物差しといった物を測る道具についての展示会の知らせがあった。その中で取り上げていたことに、鯨尺と曲尺（かねじやく）の紹介があった。その説明を聞いておやつと思っただ。いわく、鯨尺は曲尺より約5cm長く、約38cmだ。私の知っているのとはちよつと違う。念のために辞書で調べてみると、鯨尺は「元、布をはかるときに使ったものさし。鯨尺の1尺は曲尺の1・25尺（約37・8cm）」とある。他の辞書を見ても大同小異。「かね尺（曲尺・矩尺）は、鯨尺の8寸」とある。又これは、30・303cmに当たると書いてあるものもある。

これだけ見ても、NHKで言っていたことは余り正しくないことが分かる。38cmはともかく、曲尺より5cm長いというのは随分いう加減である。もう少し詳しく、「単位の辞典」という本で見ると、尺貫法という日本古来の度量衡単位は、中国の影響で用いられたものとしており、朝鮮半島のものの影響を受けているとされるが、その原器があるわけではなくて、

厳密な独立した単位系とは言えないという。日本ではメートル法が採用されており、1966年以降は取引・証明には尺貫法の使用は禁止されているが、建築用の曲尺と和裁用の鯨尺については、その物差しの製造・使用が認められている。

鯨尺については、これは裁縫用で、曲尺の1・25尺であるが、その起源は不明とする。これは明治の制度において初めて公認され、物差しを鯨の鬚で作ったのでこの名があるとする。曲尺・矩尺には「曲り金・さしがね・かねざし・大工金・かね」などの異名があり、明治政府が尺を定めるに際して、寸法に多少の出入りがあったのを33分の10メートルを1尺として、今日に至っているものだという。

現在公式には使わない単位であるから、少しくらい間違っても特に支障はないと思うが、基本的には、もう若い人々は知らないことである。そういうことは言うならばやはり正しく言っただけかと思う。我々が学生の頃には、相撲取りの身長・体重は尺貫法で、たとえば、5尺8寸、36貫などと言っていた。因みに、

此をメートル法に直せば、ほぼ、174cm、135キロということになる。直接関係はないが、「里」という単位。一里塚という言葉を理解するにはそれがどれほどの距離を言うのか分かっていたほうがよからう。大学生に聞いてみたが、余り正確なことは知らないようだ。

歴史上、重要なことの一つとして、邪馬台国の位置を、「魏志倭人伝」の記事からそれを知ろうとする。それには、朝鮮半島の帯方郡から南に何里、東に何里、水行何里、陸行何里などと書いてあるが、未だにその位置は確定しない。大和説と九州説

とがある。随分離れているが、その記事の読み方によってどちらにでも成る。ただ、ここにある「里」は現在普通に言う「里（約4km）」とは相当違う。それで計算したら、朝鮮半島から九州に来るだけで、もう地球半周以上もしたような数字になつてしまう。度量衡の単位は、随分時の権力者によって変えられているので、その単位が、一体どれだけを指すのか、正確に知らないとならぬ記事を誤解してしまうことになるから、十分に気を付ける必要がある。

## 百日紅

「さるすべり」と読む。暑い夏の盛り、赤、白、ピンクその他微妙な色合いの花が次々に鮮やかに咲き、まさに百日の紅である。その樹幹は、さるすべりの名の通り、つるつるしている。そして、庭木として植えてもいっかな大きくは成らないから、逆に珍重される。

この百日紅が、名古屋の町の中には、街路樹として割合あちこちに植えられている。この数日來の猛暑の中にもめげた様子

もなく咲いている。それはそれでいいのだけれども、こう暑いと、木陰が恋しい。その意味では、この百日紅の街路樹は全く無力だ。ケヤキ、プラタナス、アオギリ、シンジュ、ポプラ、トウカエデ、イチヨウあるいはサクラなどが、涼しい陰を作ってくれている。こういう涼しい陰のある道を選んで通ろうと思うのだが、なかなかそうはいかない。建物の陰ですら、この炎暑の中

# 魔

はそれ以上のさわやかさを感じる。東山公園の横を通るときにはひととき涼しさを満喫する。それに比べ、この百日紅の街路樹は、どういう目的で植えられているのか、日陰などはどうでもいいと思って植えられている。後から言うな。

反省、後悔の弁。こういうこととは言いたくない。そう思ったから、そうしておけばいいのだ。後から言うな。

後悔先に立たずとか、下司の後知恵とかいう。不思議に後で考えると、その時そうしておけば良かったんだがなあという風に思うことがある。スポーツの解説者がよく言うことだ。あんなのは、解説でも何でもない、下司の感想だ。この頃のスポーツ中継は、ほとんど何でも解説者というのがついていてうるさい。ついたらありやしない。たまに、ポソッポソッとつぼを得たことを言うのが居るが、稀だ。

そうでなくても、ああしとけば良かったんですがね、といつも口癖のように言う人が居る。

反省は必要だ。しかし

# こうすればよかった

ののだろうか。百日紅そのものに何の落ち度もないのだが、暑い最中には、どうしてこんな木を植えたのだろうか、などと恨めしくさえ成る。(今年一番の暑さになるだろうと予報されていた日。2007.8.16)

し、それを以後の思考や行動に生かさなければ何にもならない。私は、なるべく、こんな事を言わなくてもいいように、気を付

# 御馳走さま

この、日常使う言葉、その一つ一つの漢字を相手にその意味を調べていた。学生が、「馳」が分らないと言う。確かにこれは常用漢字にはない。馳せ参じるなどという、一寸古い言葉には用いられている。結局の所は、「馳」も「走」もはしることをいうわけで、同じ意味の言葉を重ねた熟語であり、「馳走」は「かけずり回る」「東奔西走する」ということを意味する言葉である。それがどうして、今のよう

けている。文章を書くのも同じ事だが、文章はなんと言っても読み返せる。ワープロで原稿を書くようになって何年かになる。見直さなかったときのひどさ、校正をしなかったときの文章と同じだ。画面ではなかなか十分に推敲は出来ない。印刷すれば紙の無駄になるが、反故を使うようにしている。そうすると今度は印刷がうまく行かないことが多い。なかなか、難しいが、やっぱり何回か、読み直し、直す。ああ書けば良かったなどと言わな

る前後の挨拶になるのか。食事の材料を集めて客人をもてなすためにつけて回ったことがこの言葉のものであるということだ。は、前にはよく聞いたことだ。だから食事に対して感謝しなければならぬということ、**「米」という字にしても、出来るまでの生産者の苦勞を「八十八」と書く共言われたものだ。**こういうことは誰でも知っていることと思っていた。ところが、そうではなかった。大学3年の女子学生20人、誰一人として知らな

かった。本当にびっくりした。そして、そのびっくりしたことを又、少し年上の学生・院生などに話したところが、特別の反応がない。あえて、その由来を聞くところ彼らもどうもこのことは知らなかったようだ。二度びっくりした。

無理もないことも知れない。今の日本、たいてい家庭で食べ物溢れているし、欲しいものが有れば、お金さえ出せば、ほとんど何でも手にはいる。何も、食材を求めて走り回ることはない。

しかし、である。こんな状況は希有なことである。アフガニスタンを引き合いに出すまでもない。不景気不景気と言いながら、世界中で、こんな豊かなところはそうそうはないことを日本人は肝に銘じるべきだ。世界中には、未だその日の食事にも事欠く人々がいることに思いを致し、この状況に感謝するとともに、自分の食分を割いてでも、世界の人々が同じようになれるようにとさえ、努力し、協力しなければ成るまい。

食事に限らず、住環境、医療のこと、言い出せばきりがなが、今は、「御馳走さま」に触発されて、食の面にかぎつての所感である。

# 言

## 若者の理工離れへの対応

★工学研究科長小野木教授のインタビューに興味があった。特に、若者の理工系離れに努力されていることがわかりました。

【涌井義二】

## インタビュー面白かった

★小野木克明工学研究科長のインタビューがとても面白かった。

【風間駿輔】

## インタビュー継続して

★トップインタビューが大変良い。今後是非継続して連載してほしい。

【社本好由】

## オーバード講演聞きたかった

★チャールズ・オーバード博士の講演会「国際平和と憲法9条」に参加できなかったことが残念です。

【あみん】

## 僕もカンパしたい

★オーバード博士の講演に感動した。ぼくもカンパしたい。

【く●た】

## 新FN退官しても続けて

★新フィールドノートが健在で安心しました。広木先生の書き出しにはちよつとびつくりしましたが：。まだ先ですが退官した後も是非続けてください。応援します。今月から始まった「東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ」のコーナー、昆虫が好きなので次号も楽しみにしています。

【玉木一郎】

## 自然の多い大学の夏は楽しい

★先日、ズシクワガタとカブトムシを見ました。名大にはいろいろなゾウムシがいるようで、このように自然の多い大学で夏は結構楽しいです。蚊が多いのは、難点ですが…。

【BAKALIST】

## 生き物シリーズいいですね

★夏になると、東山地区にたくさん虫が出没するのは知ってましたが、ゾウムシもいるんですね。他の生き物シリーズなんかも連載されるといいですね。

【えすばあ】

## 記事のページが毎号楽しみ

★『もくじ』で言うところの、【記事】のページを毎月楽しみに

しています。No.号の「ニュースに一喝！」のページでは共感する部分もあり、新しい知識を得ることもできました。最後の「かけはしの輪」のページでは、みなさんの感じていること等が載っていて、へえ。と思ったり、そうだよね。と思ったり、なかなか楽しませてくれました。ところで、生協の本屋の利用班って一体何なのでしょう。そういうことを掘り下げて書いて頂けるともつと嬉しいですね。【くう】

## 毎日食べると罰が当たる!?

★イチゴミルクとレモンティーを読んで、私も大好きなものは毎日食べると罰が当たるような気がして、毎日食べられないと思っっています。私にもそんな思い出のある食べ物があったか、食事の度に思っっています。

【抹茶プリン】

## 封印された古代の記録?

★折しも再び新潟沖地震が発生しました。今月号のクイズにもあった「化石」は、このような地震によって封印された古代の記録なのではないでしょうか?

【赤塚保雄】

## クリーニング撤去は残念

★北部厚生会館の改装にともなつて、クリーニングコーナーが撤去されてしまうそうで、とても残念です。大変便利でよく利用していたのに。【JJJ】

意見と  
通信

## 夏の間のビアガーデン

★教職員委員会活動日誌の5・6月にビアガーデンという事項があったのですが、夏の間だけでも生協でビアガーデンのようなものってできないのでしょうか? 例えば、豊田講堂前とか、中央図書館の前とか…。

【BAKALIST】

## 食堂の成分表でないかな

★他の大学生協の食堂を利用しますと、レシートと成分表を書いたものがもらえることがあるのですが、名大でもそんな企画はありますか? レジが渋滞して対応が大変かもしれませんが、

【えすばあ】

## 組合員メリットを全面に

★「かけはし」、いつも楽しませて頂いています。丁寧に製本して頂いています。表、背表紙も普通の白い用紙でいいのではないのでしょうか？ また、わざわざ製本しなくても、A3の用紙に両面印刷し、真ん中を折る形で充分、立派な冊子になると思います。冊子作成へのコストをできるだけ控え、その分、組合員に還元されるようにしてもらいたいですね。私は本屋さんをよく利用させて頂いているので、組合員になりましたが、周りでは組合員になっていない人が少なく、理由を聞いてみると、「組合員になってもメリットが少ない。」と答える人が多いです。「本がせめて2割引になればいいのに。」とか「お弁当やパン等売店の買い物も割引があればいいのに。」とか、そのような意見が多いです。また、組合員の制度自体を知らない人もいます。学生は加入の案内が入学時にあるのかもしれないが、職員には案内のようなものはありません。(私にはありませんでした)私は、本屋さんで初めて本を購入した時に、「組合員証はありますか？」と聞かれ、そういう制度があることを知り

ました。ですので、宣伝も必要かと思えます。更に、生協に加入するどのようなメリットがあるか、それを知らない人が多いです。ホームページにも書かれています。お店にポスター(手書きで充分)を貼るなどして、もつと生協の組合員になったときのメリットや、商品の情報等を詳しく知らせ呼びかけて欲しいです。曖昧な表現ではなく、はっきりと書かれてはいいかでしょうか。そして、個人的には、旅行代金の割引があればとても嬉しいですが、現在でも割引はあると思えます。5万円以上の旅行なら0.5〜1割引とか、それくらいの金額から割引してもらえると組合員がもっと増えると思います。売店に売っているお弁当で、380〜400円くらいの手作りの丼物ですが、全体的に量を減らし、半額くらいの値段でミニ丼を作つて欲しいです。「量が多いし、値段も少し高いから買えないよね」という人をよく見かけます。(自分を含めて)とっても美味しそうなので、みんな食べたいのだと思います。(私も食べたいです!)フロントのカフェをよく利

用させて頂いていますが、惣菜系或いはそれほど甘くないパンをもっと充実してもらえると嬉しいですね。ランチに甘いパンばかり食べていられません。美味しいそうなベーグルがありますが、アレルギーがあり、具によつては食べれないので、いろいろな種類のパンがあれば、食べれそうなものを選ぶことができます。北部の購買のパンやお菓子の充実さには感心しています。「つけやき」は外さず、このまま置いてもらえる大変嬉しいですね!色々見させて頂いて恐縮です。これからも期待しています!

## もつと野菜を

★手作り弁当にもつと野菜を入れて欲しい。  
【風間駿輔】

## 舂名大特集を読んでみたい

★今月は大相撲名古屋場所、名大出身の力士、舂名大の特集が読んでみたい気がします。  
【玉木一郎】

## 花や木なども取り上げて

★東山キャンパス周辺のソウムシ以外にも、花や木やその他いろいろ取り上げてみてはどうでしょうか。  
【くた】

## 野生生物の特集記事を

★東山キャンパス内で見かける鳥や蝶などの、野生生物特集記事を載せて欲しい。  
【あみん】

## インタビューは興味深い

★いつもながら研究科長のインタビューは興味深いです。これからも続けてください。  
【JJ】

## 北部の改装に期待します

★北部厚生会館が改装されるそうですね。以前は書籍と同居していたので、よく利用しましたが、現在は移動が不便なので、めったに行くことはありません。改装後は便利な施設になることを期待しています。  
【赤塚保雄】

## 食堂フェアの紹介も

★生協の食堂の〇〇フェア等のイベント情報があれば教えてほしい気がします。ふだん生協の食堂に行かない人も、そういうお知らせを見たら食べにくるかもしれません。  
【玉木一郎】

## リゾットやパスタも

★カフェフロントにリゾットとかパスタとかおいて欲しい。  
【まるこ】

# 夏の組合員交流企画報告

6月25日からの生協サマーフェア企画に呼応して、教職員委員会では夏の組合員交流企画を開催いたしました。

## うたごえ喫茶に16人参加

6月25日18時からIBカフェを借り切ってスタートの予定だったのですが、IBカフェにはお客さんが次から次へと入ってくる状況と、機材のセッティングの遅れもあり、「うたごえ喫茶」のタイトルを貼って準備ができた18時15分にスタートとなりました。歌を覚えましょうという企画で「たんぼほ」「ねがい」の2曲を入念にご指導頂き憶えることができました。教育学部の職員の方から「おじんクラブ?」の紹介と合唱劇「カネト」の案内がありました。その後、職員合唱団の演奏があり、その時間を利用して参加者の方には食事を提供しました。

職員合唱団の1部は「エーデルワイス」「アメージンググレイス」「まちぼうけ」の3曲の熱唱を聴くことができました。それから職員合唱団も交えて夕食タイムとし各テーブルで話の輪が

盛り上がりつつありました。

IBカフェの営業時間が20時までとなったことを忘れていたのか19時45分に職員合唱団の第2部を再開しふるさとの四季から「ふるさと」「春の小川」「おぼろ月夜」「茶摘み」などが披露されました。営業終了時間間際でしたがアンコール曲も披露いただき20時ちょうどに終了しました。

## DVD上映会「フラガール」

ゆくどん(6/26)とカフェフロンテ(6/27)にて2日間のべ12人が参加しました。最優秀作品賞など昨年度の日本アカデミー賞4部門の最優秀賞を獲得した話題作の割りに参加者は少なかったです。今回初めて使用する中古のステレオだったので、ゆくどんでの上映では最高に盛り上がるシーンのラストの太鼓の音とともに音声が飛んでしまうハプニングがありました。ポリウムの上げ過ぎで出力リミッターが働いてしまったようです。カフェフロンテではその経験を生かしてラブルなく終えることができました。コンピュータグラフィックスを駆使したり、高額なセットを使用しお金をかけて魅了するハリウッド映画と

違って人の心を揺さぶる日本映画はまだまだ健在って感じがしました。

## ビアガーデンには45人

お店の設営の要員不足によりスタートが15分遅れとなりました。今年はず常連客に加えて高齢の学内交通整理員の方々がオーブンをまだかまだかとお店の前で待っているような状況でのスタートとなりました。食材料関係も毎年残ってしまうので少なめに注文してたので、6時半ころには用意した食材が売切れ急遽、食堂に追加を頼む様な状況で終始お店の中はにぎわっ



カフェフロンテでの「フラガール」上映会風景

ており、和やかに楽しんで頂きました。ビアガーデンの収益等5436円はユニセフを通して新潟沖地震災害義捐金として寄付いたしました。どうもご協力・ご参加ありがとうございました。

# 名大生協



## 「かけはし」編集委員会行

山 折 り

○氏 名 \_\_\_\_\_ 組合員証番号 \_\_\_\_\_

○所 属 \_\_\_\_\_ 研究科  
学部 \_\_\_\_\_ 専攻・課  
センター \_\_\_\_\_ 学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 \_\_\_\_\_ 内線 \_\_\_\_\_

○誌上匿名希望の方はペンネーム \_\_\_\_\_

山 折 り

①瑞浪・中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学【9月16日(日)】

②中山道を歩こう2ー大井宿～落合宿まで【11月3日(土)】

参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	年齢	内 線	組合員証番号

\_\_\_\_\_ アンケートに \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ ご協力願います。 \_\_\_\_\_

第 273 号

クイズのこたえ \_\_\_\_\_

☆今月号を讀ん  
での感想

---

---

---

---

☆記事にしてほしいこと。生協へのご  
意見やみなさんからの通信をぜひ。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

COOP クイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail: [kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp](mailto:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp) でも受け付けます。必要事項をれなく記入してください。

## 7月度理事会報告

7月23日18時00分からフレンドリー南部に於いて7月度理事会が開催されました。

### 協議事項

1、北部厚生会館1階改装に伴う投資額概要及び店舗レイアウト、閉店等の対応、利用者への案内（周知）に関して

投資に伴う費用の処理については耐用年数を冷蔵機器6年、棚8年、照明15年、床・壁10年、天井10年、入口の補修12年、カウンター5年、レジ4年、とそれぞれ決めて減価償却していく。

建物の付帯設備の改装に関しては大抵の寄付として処理したい。有利な面は単年度で一括損金計上できるが、不利な面としては大きな赤字を生む危険性もある。

約5千万の見積もりとなっているが細かいところまでチェックして抑えるところは抑えます。

改装による閉店期間は9月1日～17日とします。閉店中の対応といたしましては、パソコン関係等のメールでの問い合わせには引き続き対応いたします。北部旅行サービス

につきましては、南部書籍部の一部を間借りして対応いたします。利用の多いJR券の発券につきましては、端末の移設はできませんので大学生協東海会館にて発券いたします。関係で翌日お渡しとなります。

2、6月理事会の討議をふまえ総代会のまとめと組合員への報告

6月理事会で検討いただいた総代会運営上の問題点等を来年度の総代会プロジェクトに引き継いでいく。

3、名古屋大学オーブンキャンパスの取り組み

8月8日～10日にかけて名古屋大学に7千人の高校生をお招きすることになる。大学主催のイベントを側面から成功に向けて支援いたします。休憩所、食事、飲み物、道案内、資料の準備、学内地図の入手、たうちわの作成、学生からの情報としてキャンパスノートの配布等を取り組みます。

4、平和憲章エッセイ応募の選考に関して

6月末日で応募を締切、8作品の応募がありました。教職員と学生理事による審査委員会開催し、入選1名、佳作4作品を決定いたしました。（詳しくは本紙記事を参照）

5、全学教育棟改修工事に伴う店舗（プランゾ）閉店及び今後の対応に関して

プランゾが入っている全学教育棟の改修工事が8月から行われますので、プランゾの営業は7月31日をもって閉店とさせていただきます。プランゾをご利用いただいていた一日約五百人の利用者への対応としてパンだが屋の営業時間の見直しとパン・弁当を中心とした商品のより一層の充実を図っていきます。また、改修工事後のお店としてカフェを中心としたお店の提案を大学にしています。

### 報告事項

各組織委員会の活動報告。6月の供給は旅行サービスで86万円の予算超過しましたがそれ以外で大きく利用を落とし全体で2480万円の予算割れの結果となり、5月の予算超過分を帳消しとした結果となりました。副総長との懇談会を6月28日に開催し、昨年度の生協経営状況を報告し、南部食堂改修を大学と一緒に実現する方向を提案しました。人事異動として南部書籍の猿谷さんが中京大学生協に移籍する報告があり19時50分に閉会しました。

## 教職員委員会活動日誌（2007年7・8月）

月 日	事 項	場 所
7月9日(月)	7月度常任理事会	ゆ～どん
21～22日	東海地域センター理事長・教職員セミナー	下呂温泉・望川館
23日(金)	7月度理事会	フレンドリー南部
28日(土)	平和と国際交流プロジェクト	東京・杉並会館
29日(日)	全国教職員委員会	東京・杉並会館
30日(月)	7月度教職員委員会	IBカフェ
8月7日(火)	8月度常任理事会	ゆ～どん
25～28日	全国教職員委員会活動交流会	広島大学

